

大学・学部別、高等学校までのキャリア教育 と大学生のキャリア意識の形成について

- 日本工業技術教育学会 全国大会
- 平成23年7月3日 於:名城大学

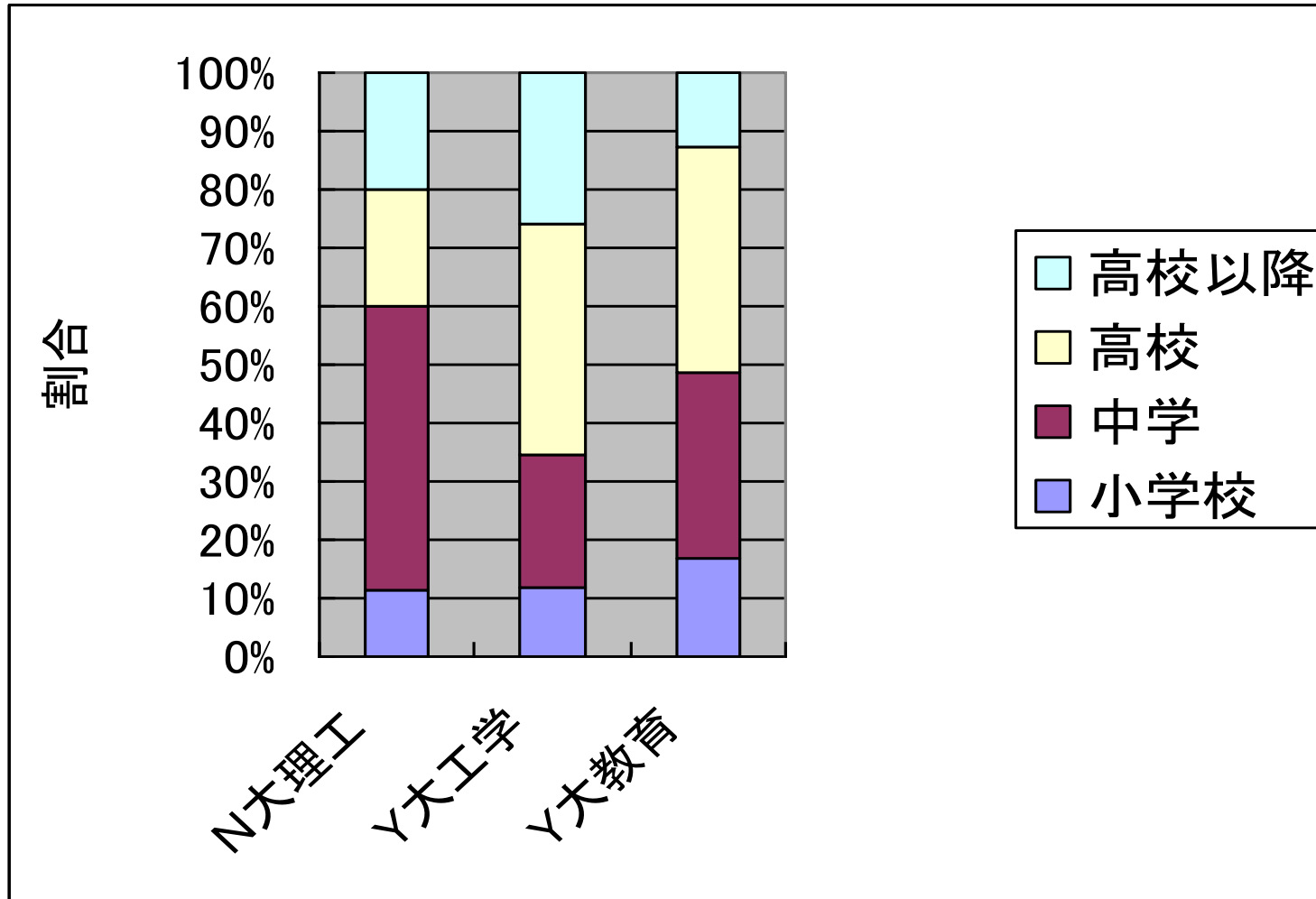
発評者

- 中村豊久 静岡大学工学部講師
- 森本信也 横浜国立大学人間科学部教授
- 木村隆文 横浜国立大学工学部講師
- 渡部憲次郎 横浜国立大学工学部講師
- 佐藤弘幸 元成蹊大学理工学部講師

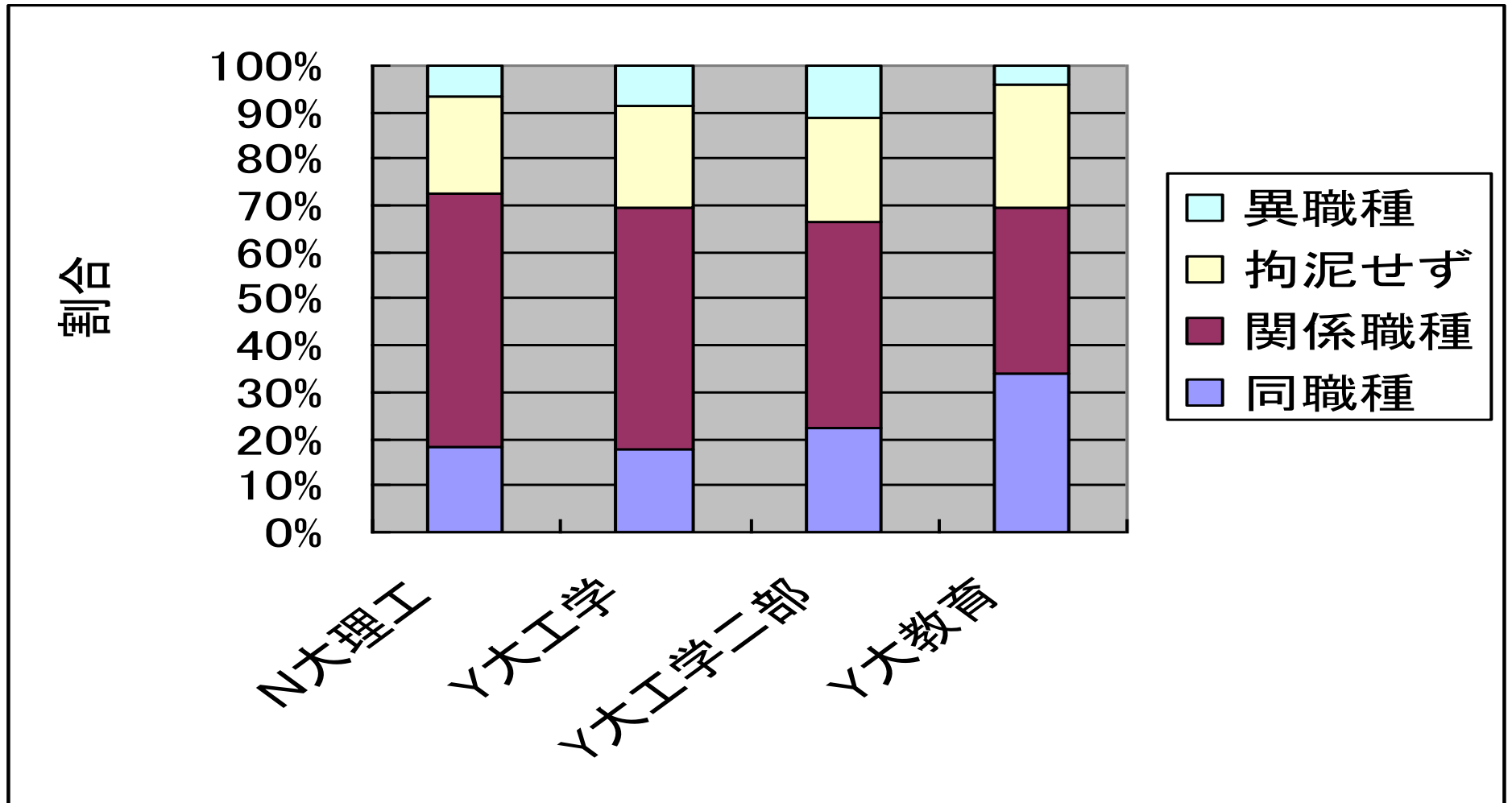
大学・学部・専攻学部別人数と受講率

		N大理			Y大		合数
		工学	物理	数学	工学	教育	
男子	人数	25	12	42	100	63	242
	%	60.9	75.0	87.5	78.7	52.9	
女子	人数	16	4	6	27	56	109
	%	39.1	25.0	12.5	21.3	47.1	
合計		41	16	48	127	119	351
1学年	定数	1240	140	100	695	230	
受講率	%	3.5	11.4	48.0	19.1	51.7	

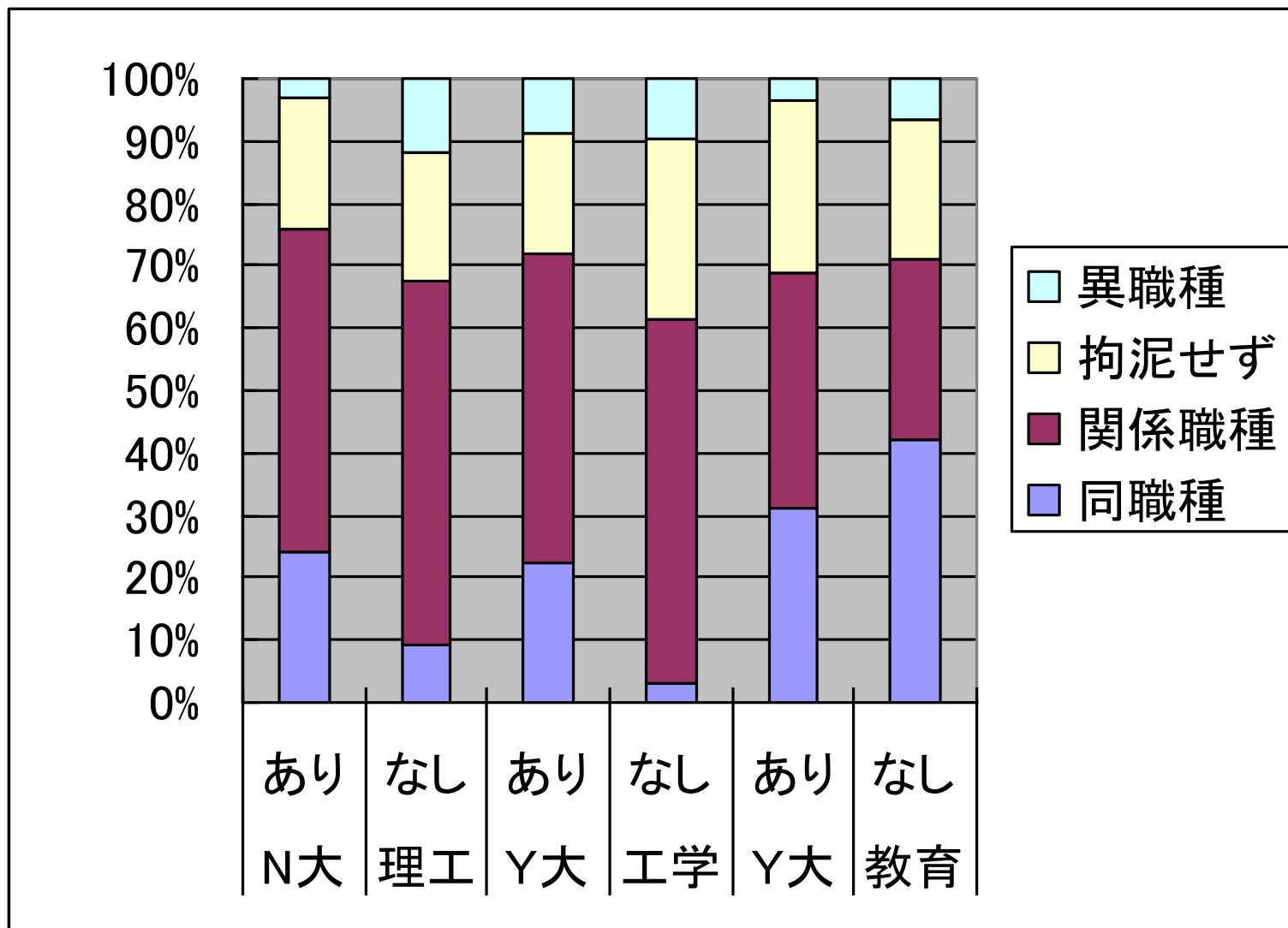
大学・学部別職業を意識した年代



大学・学部別、卒業後の希望職種



大学・学部別、担任との面談の有無

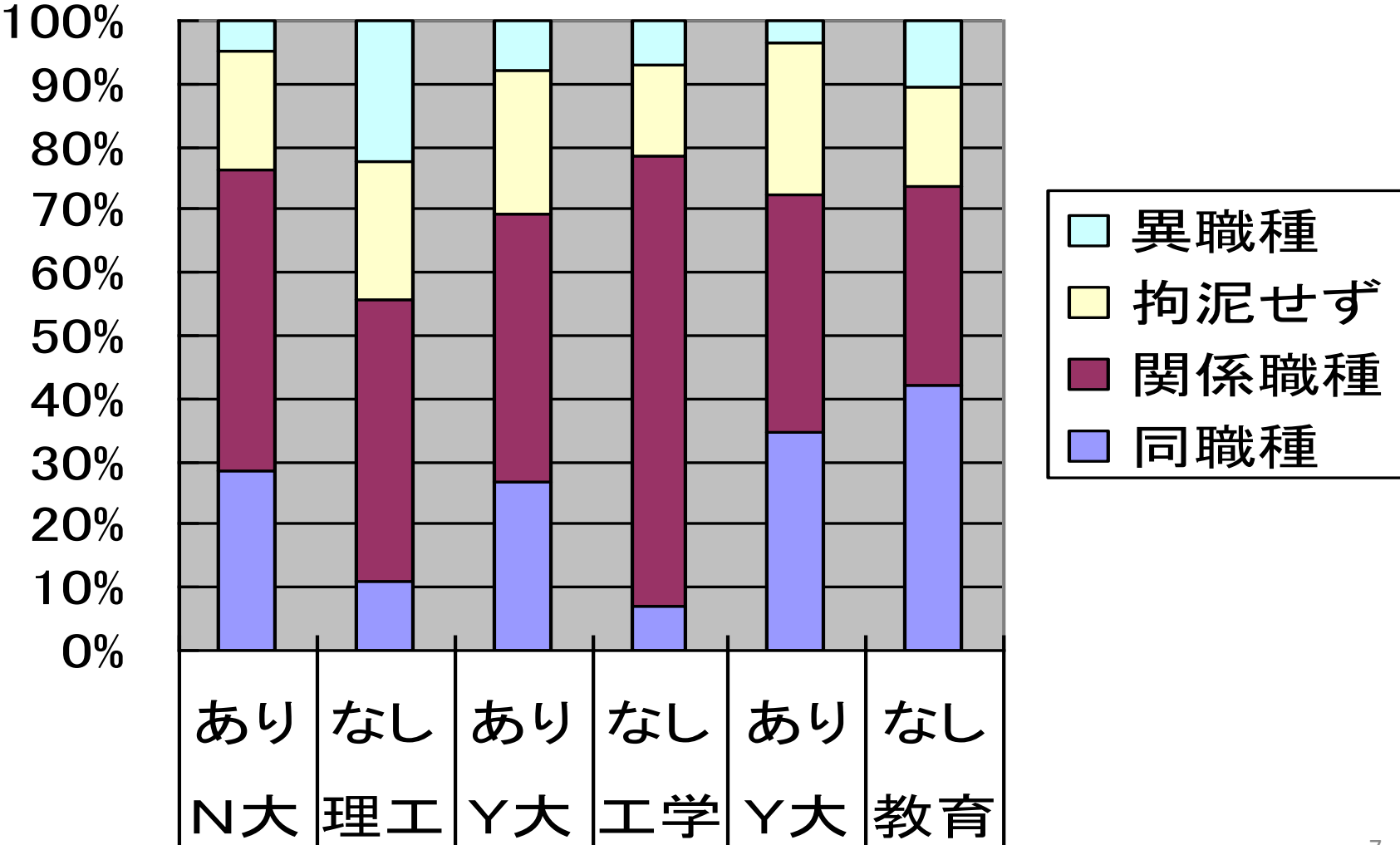


公立、私立高校別担任との面談の有無

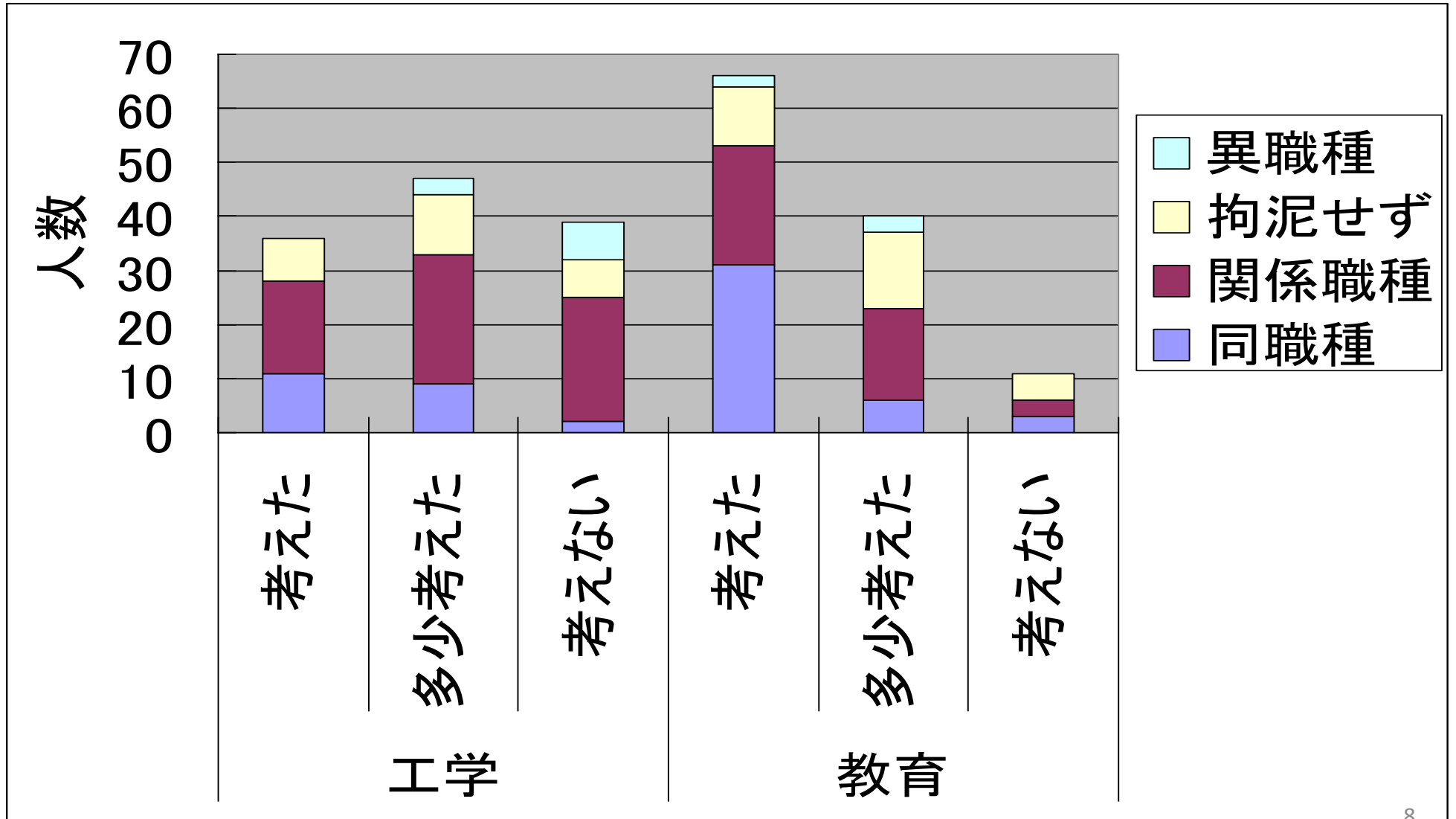
		N大理工	Y大工学	Y大教育	合計	割合%
公立高校	あり	26	72	63	161	73.5
	なし	18	21	19	58	26.5
私立高校	あり	37	23	25	85	64.3
	なし	24	11	12	47	35.7
合計		105	127	119	351	100

3種類の進路指導と卒業後の希望職種

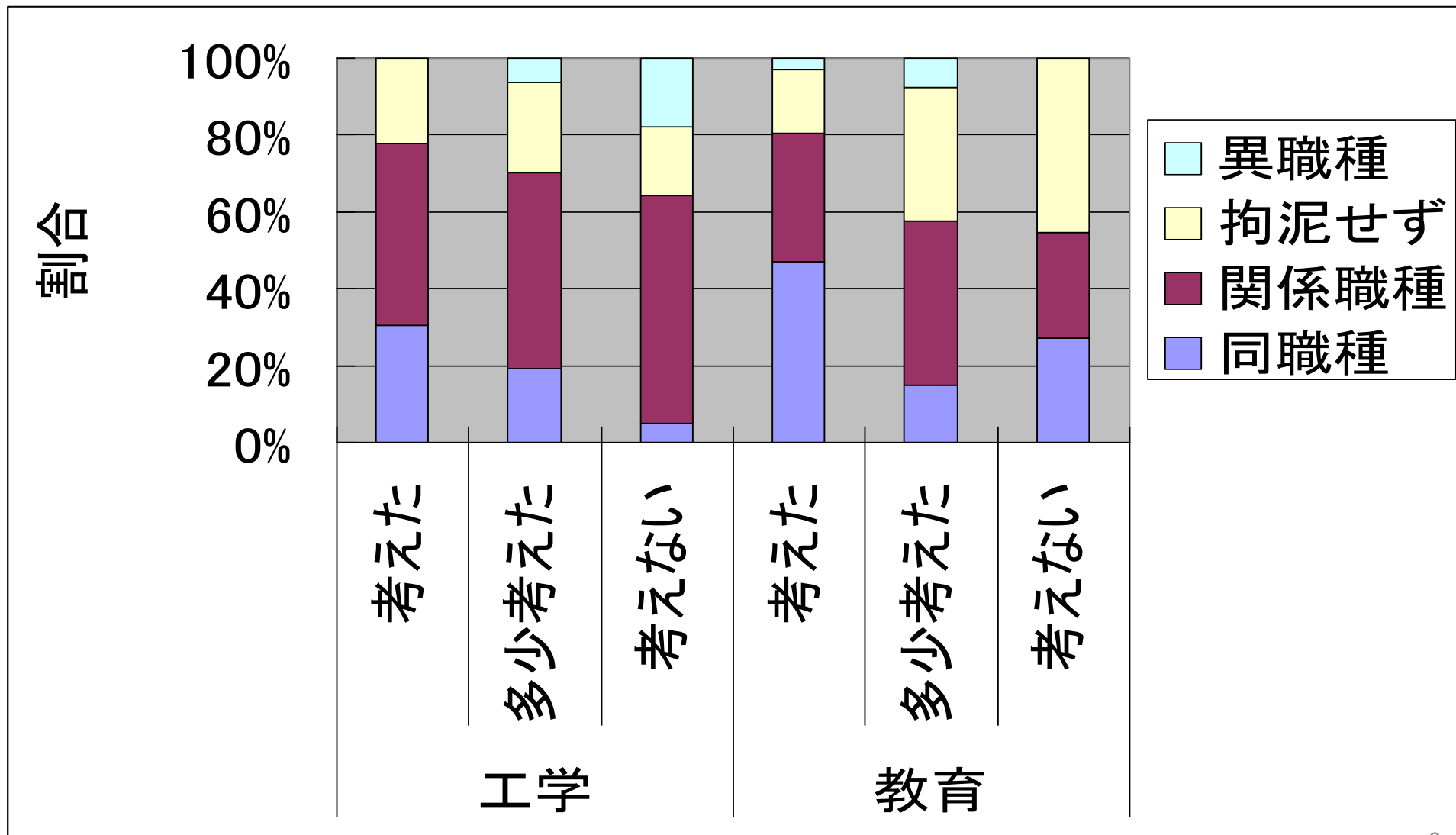
割合



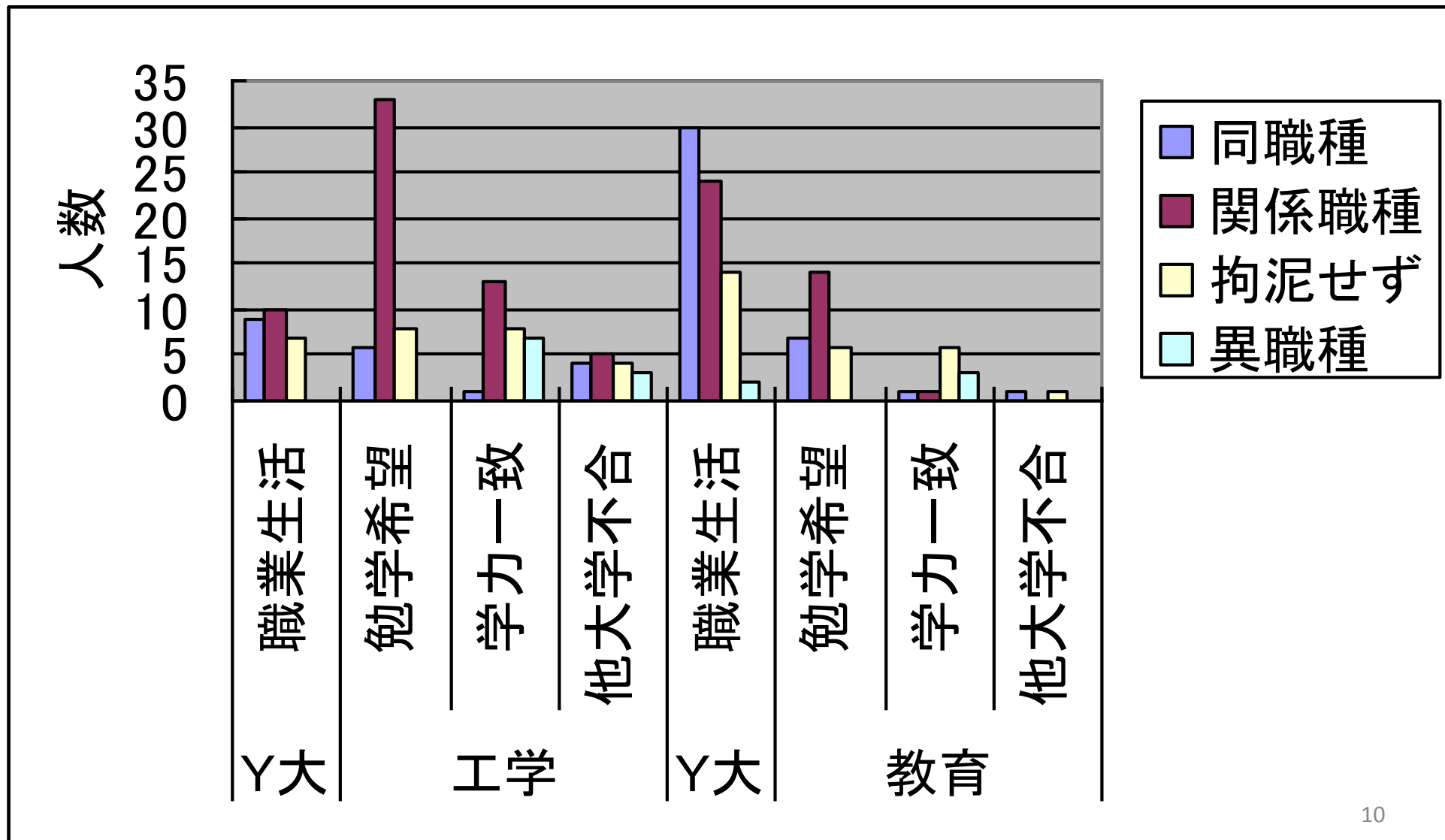
受験時に職業生活を考えた程度



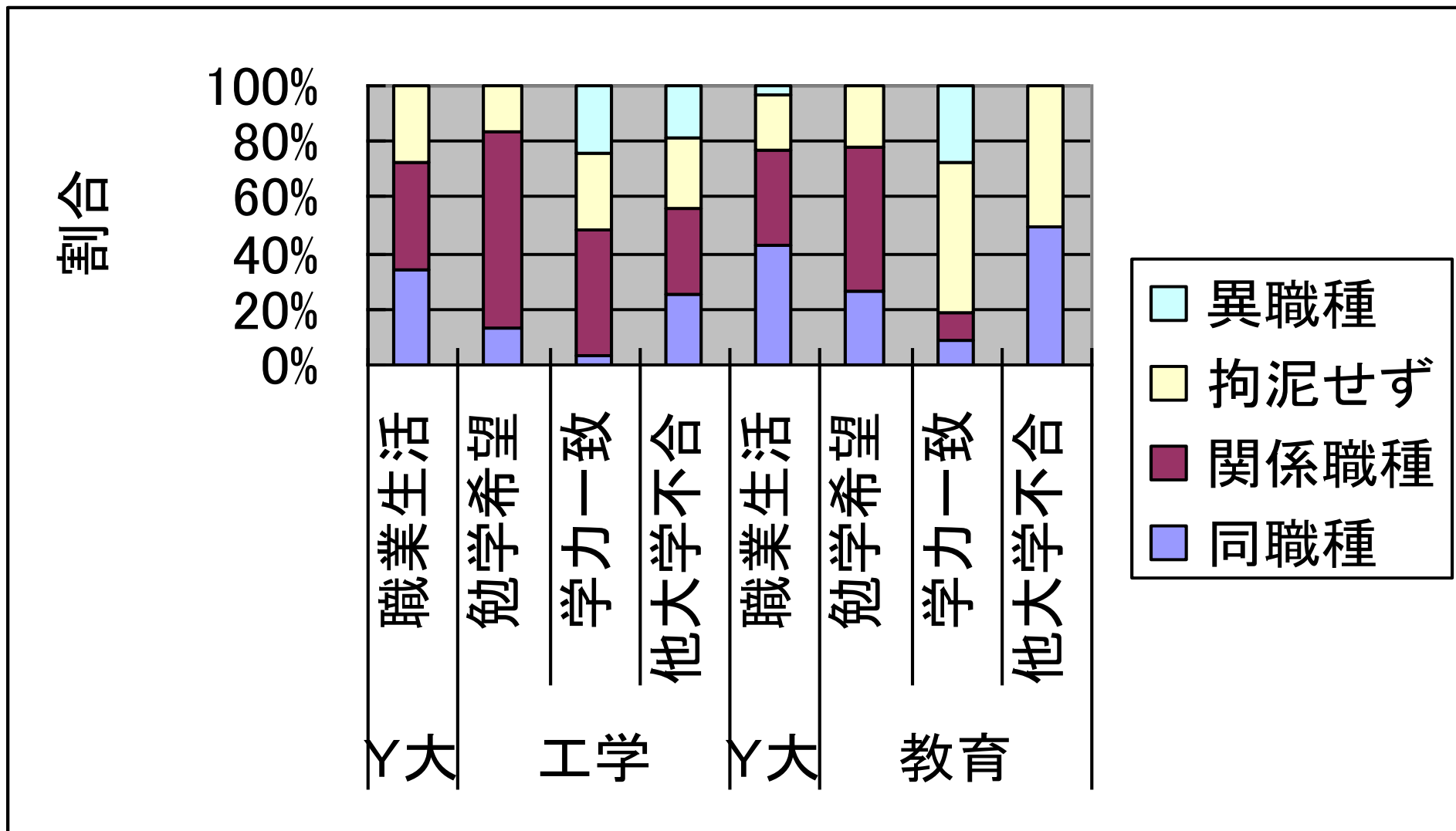
受験時に職業生活を考えた程度



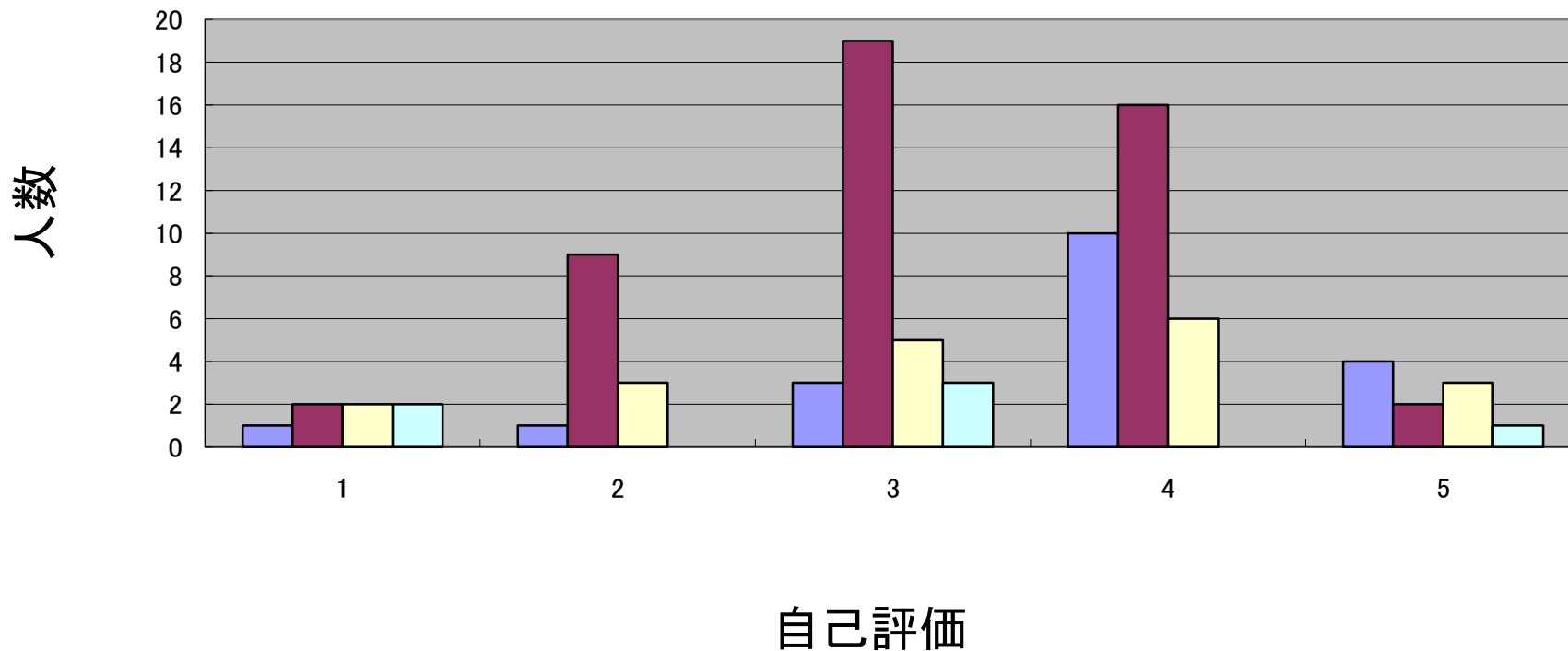
入学決定動機と卒業後の希望職種



入学決定動機と卒業後の希望職種

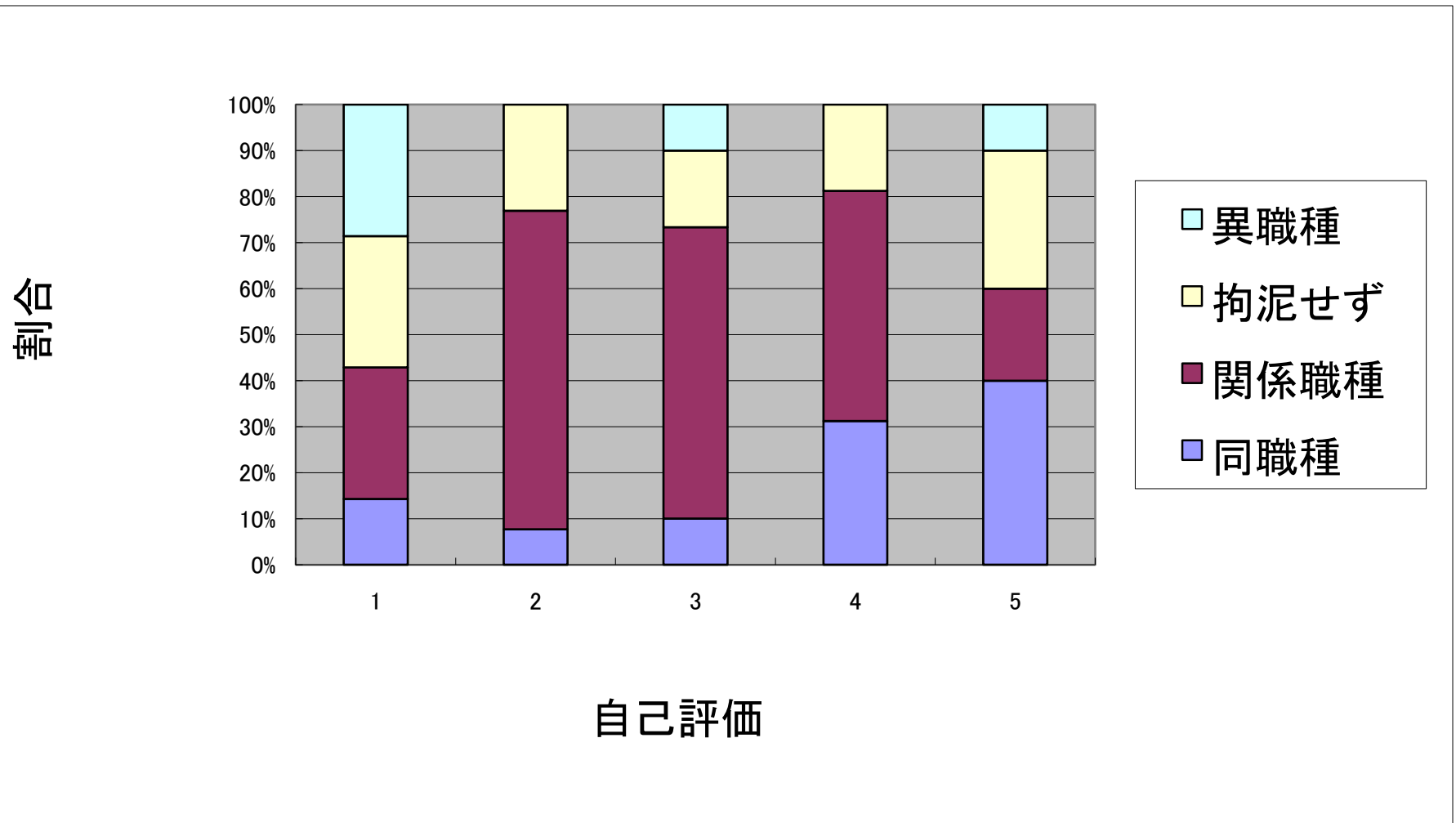


工学部の自己評価(専門教科)

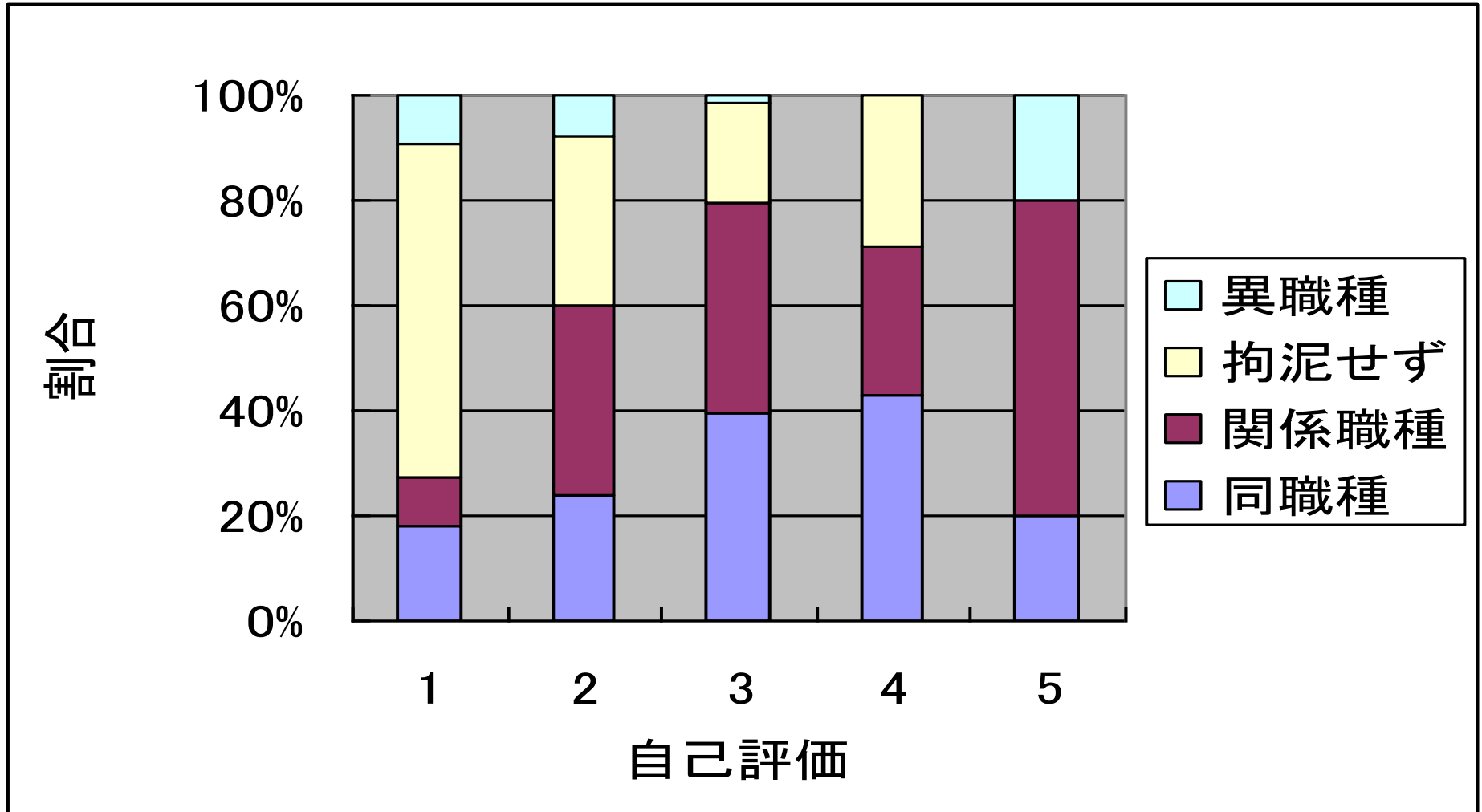


■ 同職種 ■ 関係職種 ■ 拘泥せず ■ 異職種

工学部の自己評価(専門教科)



教育系の自己評価(専門教科)



Y大学自己評価と希望職種との相関係数

	工学系	教育系
普通教科	0.2618	0.1131
専門教科	0.2891	0.1791

大学・学部別異職種希望割合

	N大学 理工			Y大学	
専攻系	工学	物理	数学	工学	教育
アンケート 回答者数	41	16	48	127	119
異職種 回答者数	5	0	2	11	5
割合 %	12.2	0.0	4.2	8.7	4.2

異職種希望者の高校の担任との面談

大学	N大 理工			Y大	
	工学	物理	数学	工学	教育
専攻系	工学	物理	数学	工学	教育
異職種希望者数	5	0	2	11	5
担任との面談あり（人数）	1	*	1	1	3
//（割合%）	20.0	*	50.0	27.2	60.0
担任との面談の平均	65.9	62.5	56.3	74.8	73.9

まとめ

1. 高校前に職業意識をするのは私立大学生の方が多い。
2. 大学卒業後に同職種を希望するのは教育系が多い。
3. 高校までのキャリアー教育をした方が、同職種を希望する割合は多い。
4. 大学入学決定時に職業を意識した者の方が、同職種を希望する割合は多い。
5. 自己評価の成績と希望職種との関係は、工学系はある程度相関が認められたが、教育系では認められなかった。
6. 大学卒業後、異職種希望者が存在するのは、学校教育に責任がある。

結 論

大学卒業後の異職種希望者を少なくする対策

1. 高校までの教育において、キャリアー教育を行うこと。
2. 大学教育において、学力に自信が持てる教育を行うこと。(学生自身も努力すること。)